

# 2019年3月期第1四半期 ご参考資料

日本通運株式会社  
経営企画部(IR)

I. 経営状況	
A. 2019年3月期第1四半期決算の概要	P. 1
B. セグメント別状況	P. 2-
II. 外部環境の変化およびその他の変動要素	
A. 増減要素	P. 6-
B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益内訳	P. 8
III. 2019年3月期の業績予想	
A. 連結業績予想(変更なし)	P. 9
B. セグメント別状況(変更なし)	P. 10-
C. 外部要因およびその他の変動要素(予想)	P. 13-

2018年7月31日

# I. 経営状況

## A. 2019年3月期第1四半期決算の概要

### 1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2019/3期 1Q実績 ①	2018/3期 1Q実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷② X100	上期予想 (4/27発表) ⑤	進捗率 ①÷⑤ X100	差額 ⑤-①	通期予想 (4/27発表)
売上高	5,162	4,749	412	8.7	10,100	51.1	4,937	20,800
営業利益	170	152	17	11.6	330	51.5	159	770
経常利益	183	169	14	8.3	350	52.4	166	810
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	104	110	△5	△5.3	220	47.7	115	450

（億円未満切捨て）

### 2) 連結経営指標（ ）は前年同期実績

売上高営業利益率 3.3％（3.2％）

売上高経常利益率 3.6％（3.6％）

### 【ご参考】（ ）は前年度実績

ROA 3.0％（0.4％）

ROE 8.0％（1.2％）

※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は前連結会計年度末と当期連結会計期間の平均値を使用し算出しております。

### ◇事業環境に関する認識と確認（経済環境）

- ・世界的な景気の拡大基調が継続するなか、国内、海外の荷動きは、概ね堅調に推移。
- ・当社は、その荷動きを的確に取り込むことで、売上高が伸長。
- ・連結の売上高、営業利益、経常利益は、第1四半期として過去最高。

# I. 経営状況



## B. セグメント別状況

1) 日本 ※組織改正に伴い、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更したため、（単位：億円、％）前年度の数値を変更後の数値に組み替えて比較しております。

	1Q実績		前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比		
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	3,073	2,866	207	7.2	5,990	51.3	2,916
セグメント利益	119	99	19	19.9	219	54.7	99
概況	・鉄道輸送は、自動車関連部品などの取扱いが増加したが、大阪北部地震による運休本数が増加し、減収 ・トラック輸送は、自動車関連部品、鉄鋼などの荷動きが堅調に推移 ・海運は、機械関連の輸出やコンテナターミナル業務が伸長 ・航空は、輸出混載貨物の重量が、対前年で、プラス31.1%と増加。マーケットの伸び率を大きく超過 欧州地域向けの自動車関連部品、アジア向けの電子部品や半導体製造装置の輸出が引き続き好調						

2) 米州

	1Q実績		前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比		
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	231	220	11	5.0	469	49.4	237
セグメント利益	8	7	1	15.5	20	42.9	11
概況	・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・自動車関連や医療機器関連を中心に、航空輸出が堅調に推移。航空・海運輸入、倉庫配送も取扱い増 ・費用は、顧客への転嫁と効率化による抑制が進行						

※以下、セグメント毎の概況は、第1四半期単四半期の内容。海外の第1四半期は、1-3月期。

### ◇日本・・・増収、増益

- ・国内の荷動きを反映し、国際貨物を中心に総じて、堅調に推移。
- ・鉄道輸送は、自動車関連部品などの取扱いが増加したが、大阪北部地震の影響により、運休本数が増加。
- ・トラック輸送は、自動車関連部品、鉄鋼などの荷動きが堅調に推移。
- ・海運は、機械関連の輸出やコンテナターミナル業務が伸長。
- ・航空は、輸出混載貨物重量が、対前年で+31.1%と増加。マーケットの伸び率+19.0%を大きく上回る。欧州地域向けの自動車関連部品やアジア向けの電子部品、半導体製造装置の輸出が、引き続き好調に推移。
- ・日本発の輸出航空貨物の重量動向と当社シェアの推移は、補足資料の1ページご参照。
- ・日本セグメント内の営業利益の増減に関して、決算処理を含まない参考数値だが、事業部門ごとの傾向を示す資料として、補足資料の2ページご参照。

### ◇米州・・・増収、増益

- 為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。
- ・自動車関連や医療機器関連を中心に、航空輸出が堅調に推移。
  - ・航空輸入、海運輸入、倉庫配送も、それぞれ取扱い増加。
  - ・増加傾向であった費用も、顧客への転嫁と効率化による抑制が進行。

# I. 経営状況

## B. セグメント別状況

### 3) 欧州

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比			
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	285	214	70	32.9	551	51.8	265
セグメント利益	5	8	△2	△30.5	20	28.0	14
概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収減益</li> <li>・航空輸出が、自動車関連や医療機器関連で取扱い伸長、倉庫配送業務も堅調に推移</li> <li>・フランスにおける非日系顧客の取扱いも拡大</li> <li>・イタリアでの業務失注もあり、減益</li> <li>・トラコンフ社が連結に加わり、売上に貢献したが、利益面では、大型の新規案件立ち上げにかかる一時的な諸費用の増加と、のれんの償却のため、減益</li> </ul>						

### 4) 東アジア

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比			
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	283	268	15	5.8	572	49.6	288
セグメント利益	3	4	△0	△4.0	12	32.2	8
概況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地通貨ベースにおいても、増収減益</li> <li>・航空輸出、海運輸出が堅調に推移、自動車関連の倉庫配送やトラック輸送も伸長</li> <li>・中国におけるチャーター便規制に起因する航空利用費の高止まりが継続、利益面での回復に遅れ</li> </ul>						

#### ◇欧州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

- ・航空輸出が自動車関連や医療機器関連で取扱いが増加し、倉庫配送業務も堅調に推移。
  - ・イタリアでの業務失注や前年のスポット業務の反動もあり、減益。
  - ・第1四半期の期首より、トラコンフ社が連結に加わり、売上に貢献。
- 利益面では、大型の新規案件立ち上げにかかる一時的な諸費用の増加とのれんの償却のため、減益要因に。

#### ◇東アジア・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、減益。

- ・航空輸出、海運輸出が堅調に推移し、自動車関連の倉庫配送やトラック輸送も伸長。
- ・中国におけるチャーター便規制に起因する航空利用費の高止まりは継続し、利益面での回復に遅れ。

# I. 経営状況

## B. セグメント別状況

### 5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(4/27発表)対比		
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	218	194	23	12.3	423	51.6	204
セグメント利益	8	7	0	11.5	18	48.8	9
概況	・現地通貨ベースにおいても、増収増益 ・航空輸出で、自動車関連や電子部品、医薬品等が堅調に推移、倉庫配送でも取扱い伸長 ・利用費や外注費の上昇が顕著						

### 6) 警備輸送

※組織改正に伴い、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更したため、前年度の数値を変更後の数値に組み替えて比較しております。

	1Q実績	前年同期対比			業績予想(4/27発表)対比		
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	180	180	0	0.1	362	49.9	181
セグメント利益	3	6	△3	△50.2	5	65.0	1
概況	・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが進行 ・人件費や燃油費の上昇により、減益						

#### ◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、増収、増益。

- ・航空輸出で、自動車関連や電子部品、医薬品等が堅調に推移
- ・倉庫配送業務でも取扱いが増加。
- ・利用費や外注費の上昇が顕著に。

#### ◇警備輸送・・・増収、減益

・キャッシュ・ロジスティクス・プラットフォームの拡販により、地方金融機関からのアウトソーシングの取込みが進行。

- ・人件費や燃油費の上昇により、減益。

# I. 経営状況

## B. セグメント別状況

### 7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比			
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	124	123	1	0.9	243	51.1	118
セグメント利益	10	9	0	9.8	20	53.4	9
概況	・国内外における風力発電関係の輸送・据え付けや国内の重電関連工事などが、ほぼ計画通りに推移						

### 8) 物流サポート

	1Q実績	前年同期対比		業績予想(4/27発表)対比			
	19/3期	18/3期	増減額	増減率	上期予想	進捗率	差額
売上高	1,115	1,007	107	10.7	2,224	50.2	1,108
セグメント利益	26	24	2	8.1	56	48.0	29
概況	・石油類の販売単価上昇により、増収 ・輸出梱包業務等のロジスティクス・サポート事業も堅調に推移						

#### ◇重量品建設・・・増収、増益

・国内外における風力発電関係の輸送・据え付けや国内の重電関連工事などが、ほぼ計画通りに推移。

#### ◇物流サポート・・・増収、増益

・日通商事において、石油類の販売単価の上昇により、売上が増加。  
 ・輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業も、堅調に推移。

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

変動要素	連結業績への影響	参考
燃油費単価変動による影響	営業利益 △7.5億円	(前年同期) 軽油 : 102.64円/ℓ (86.75円) ガソリン : 135.35円/ℓ (120.53円) 船舶重油 : 52.88円/ℓ (42.45円)
為替による影響	売上高 +10.4億円 営業利益 +0.5億円	(前年同期) USD : 108.30円 (113.64円) EUR : 133.22円 (121.08円) HKD : 13.84円 (14.65円) RMB : 17.05円 (16.57円)

## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### A. 増減要素

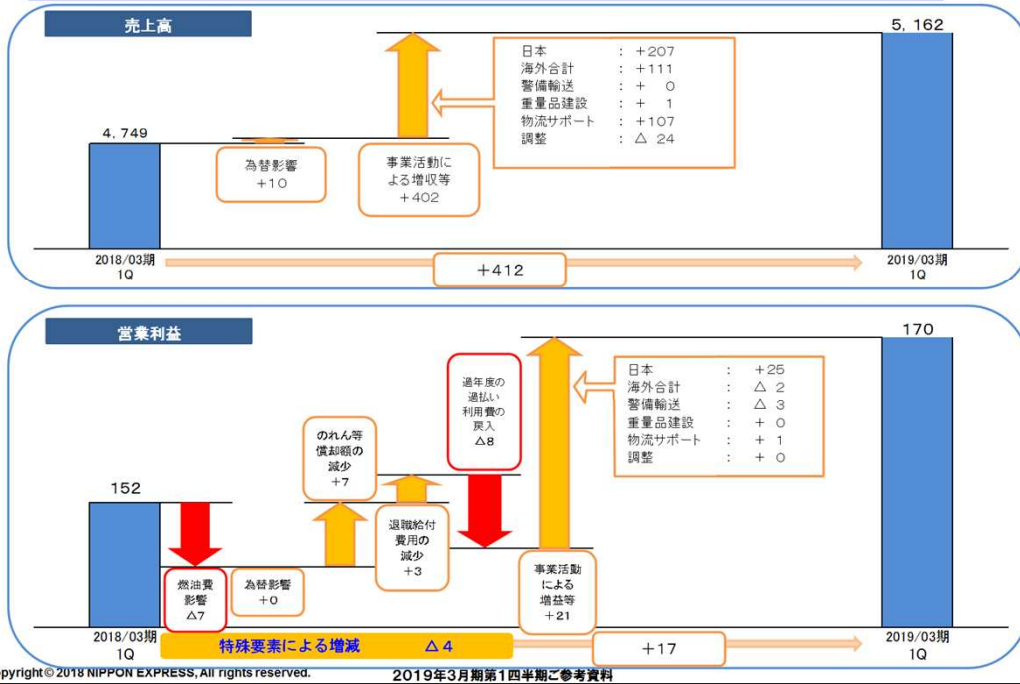
変動要素	連結業績への影響	参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益 + 7.5 億円	日本 : + 6.2 億円 南アジア・オセアニア : + 1.3 億円
退職給付費用の減少	営業利益 + 3.4 億円	日本 : + 2.7 億円 警備輸送 : + 0.6 億円 重量品建設 : + 0.0 億円
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益 △ 8 億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △ 8 億円



## II. 外部環境の変化およびその他の変動要素

### B. 変動要素を考慮した売上高・営業利益増減内訳

(単位：億円)



#### ◇適正料金收受の取組み

・第1四半期計で、26億円の収入増加の効果、外注費の単価上昇の影響が23億円と増益効果は、3億円。

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想



#### A. 連結業績予想（変更なし）

（単位：億円、％）

	2019/3期予想			2018/3期実績			増減額 (増減率)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	10,100	10,700	20,800	9,561	10,391	19,953	538 (5.6)	308 (3.0)	846 (4.2)
営業利益	330	440	770	322	380	702	7 (2.4)	59 (15.7)	67 (9.6)
経常利益	350	460	810	344	399	743	5 (1.5)	60 (15.3)	66 (8.9)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	220	230	450	215	△150	65	4 (2.0)	380 (-)	384 (588.7)

◇4月27日に発表した数値から変更なし。

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想



#### B. セグメント別状況（変更なし）

（単位：億円、％）

項目	通期			上期			下期			
	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	
日本	売上高	12,245	11,886	358 (3.0)	5,990	5,769	220 (3.8)	6,255	6,117	137 (2.2)
	営業利益	516	455	60 (13.2)	219	198	20 (10.1)	297	257	39 (15.6)
	利益率	4.2	3.8	-	3.7	3.4	-	4.7	4.2	-
米州	売上高	954	913	40 (4.4)	469	448	20 (4.6)	485	465	19 (4.2)
	営業利益	43	44	△1 (△4.1)	20	27	△7 (△26.1)	23	17	5 (29.4)
	利益率	4.5	4.9	-	4.3	6.0	-	4.7	3.8	-
欧州	売上高	1,124	960	163 (17.0)	551	438	112 (25.7)	573	522	50 (9.7)
	営業利益	46	41	4 (10.7)	20	17	2 (15.7)	26	24	1 (7.1)
	利益率	4.1	4.3	-	3.6	3.9	-	4.5	4.6	-

Copyright © 2018 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2019年3月期第1四半期ご参考資料

10

#### ◇国内

- ・航空貨物を筆頭に輸送需要が堅調に推移。
- ・利用運送費や外注費の上昇の動向、国際情勢などについては、不確実性が高い状況が継続、下期以降の見通しが困難。

#### ◇海外

- ・中国における航空規制が解除されたものの、利用費の高止まりは継続。
- ・他の地域でも、人件費や外注費の上昇が顕著に。
- ・米中の貿易摩擦など、国際物流環境における懸念も高まり。
- ・7月に発生した平成30年7月豪雨(西日本豪雨)により、当社施設等も被害。
- ・輸送の大動脈となる鉄道や道路の寸断が相次ぎ、山陽本線の一部では、復旧が11月になるとの報道あり。
- ・7月以降、鉄道輸送などでは、売上の大幅な減少も見込まれるが、現時点では、全体的な影響がまだ明らかになっていない。
- ・こうした状況を踏まえ、前回の業績予想を据え置きに。

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想



#### B. セグメント別状況（変更なし）

（単位：億円、％）

項目	通期			上期			下期			
	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	
東アジア	売上高	1,213	1,174	38 (3.2)	572	547	24 (4.4)	641	627	13 (2.2)
	営業利益	28	18	9 (51.7)	12	7	4 (56.1)	16	10	5 (48.6)
	利益率	2.3	1.6	-	2.1	1.4	-	2.5	1.7	-
南アジア・オセアニア	売上高	900	853	46 (5.4)	423	395	27 (7.0)	477	458	18 (4.0)
	営業利益	37	33	3 (8.9)	18	16	1 (10.2)	19	17	1 (7.8)
	利益率	4.1	4.0	-	4.3	4.1	-	4.0	3.8	-
蓄備輸送	売上高	739	720	18 (2.6)	362	360	1 (0.5)	377	359	17 (4.7)
	営業利益	15	21	△6 (△29.7)	5	10	△5 (△53.3)	10	10	△0 (△6.0)
	利益率	2.0	3.0	-	1.4	3.0	-	2.7	3.0	-

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想



#### B. セグメント別状況（変更なし）

（単位：億円、％）

		通期			上期			下期		
		2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)	2019/3期 予想	2018/3期 実績	増減 (増減率)
重畳品建設	売上高	458	476	△18 (△3.8)	243	248	△5 (△2.3)	215	227	△12 (△5.4)
	営業利益	36	40	△4 (△11.4)	20	23	△3 (△14.7)	16	17	△1 (△6.8)
	利益率	7.9	8.5	-	8.2	9.4	-	7.4	7.6	-
物流サポート	売上高	4,654	4,432	221 (5.0)	2,224	2,042	181 (8.9)	2,430	2,389	40 (1.7)
	営業利益	118	117	0 (0.7)	56	53	2 (5.1)	62	63	△1 (△3.1)
	利益率	2.5	2.6	-	2.5	2.6	-	2.6	2.7	-

※警備輸送事業に関わる組織改正の実施にあわせて、2019年3月期より、日本セグメントの一部を警備輸送セグメントに変更いたしました。これに伴い、本見通しについては、前年度の数値をセグメント変更後の数値に組み替えて比較しております。  
（変更セグメント：日本、警備輸送）

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想

#### C. 外部要因およびその他変動要素（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
燃油費単価変動 による影響	<b>営業利益</b> △25.8億円 上期 △16.9億円 下期 △8.8億円 【期首予想】 △12.7億円 上期 △10.8億円 下期 △1.9億円	(期首予想) 軽油 : 103.90円/ℓ (97.10円) ガソリン : 135.50円/ℓ (131.90円) 船舶重油 : 52.40円/ℓ (48.10円)
為替による影響	<b>売上高</b> △15.5億円 <b>営業利益</b> △0.4億円 【期首予想】 売上高 △33.4億円 営業利益 △0.9億円	(期首予想) USD : 109.60円 (106.90円) EUR : 130.30円 (131.40円) HKD : 13.90円 (13.60円) RMB : 16.80円 (16.90円)

- ・足元の原油価格は、依然として上昇傾向。
- ・燃油費単価は、期首の予想を上回って推移する見込み。
- ・年間での影響額は、期首予想の12億円から、25億円の増加に変更。

### Ⅲ. 2019年3月期の業績予想

#### C. 外部要因およびその他変動要素の前提（予想）

変動要素	連結業績への影響 (通期予想)	前提条件・参考
のれん及び固定資産にかかる減損損失計上による影響	営業利益(変更なし) +30億円	(通期) 日本 : +25億円 南アジア・オセアニア : +5億円
退職給付費用の減少	営業利益 +11.6億円 【期首予想】 営業利益 +9.8億円	(期首予想) 日本 : +9.2億円(+7.8億円) 警備輸送 : +2.0億円(+1.7億円) 重量品建設 : +0.2億円(+0.2億円)
その他の影響 (前年度特殊要素)	営業利益(変更なし) △19億円 (※過年度の過払い 利用費戻し入れ)	日本 : △8億円(1Q) 米州 : △11億円(2Q)

**We Find the Way**



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。